

# トルコ中銀、追加利上げを決定し、利上げの終了を示唆

～政策金利は現行水準で必要な限り維持すると表明～

トルコ中央銀行は1月25日、政策金利を42.50%から45.00%へ引き上げることを金融政策決定会合で決めました。利上げは昨年6月以来、8会合連続で、通算の利上げ幅は36.5ポイント(8.50%→45.00%)に及びます。そして、同中央銀行は声明で、必要な金融引き締めは達成されたとの認識を示し、利上げの終了を示唆した一方、現行の金利水準を必要な限り維持すると表明しました。なお、通貨リラは26日にかけて小幅な動きにとどまりましたが、対米ドルで最安値を更新、対円では昨年末の水準を2%程度上回っているものの、依然として最安値圏にあります。

## 賃上げなどに伴ない、インフレ率は目先、上振れ

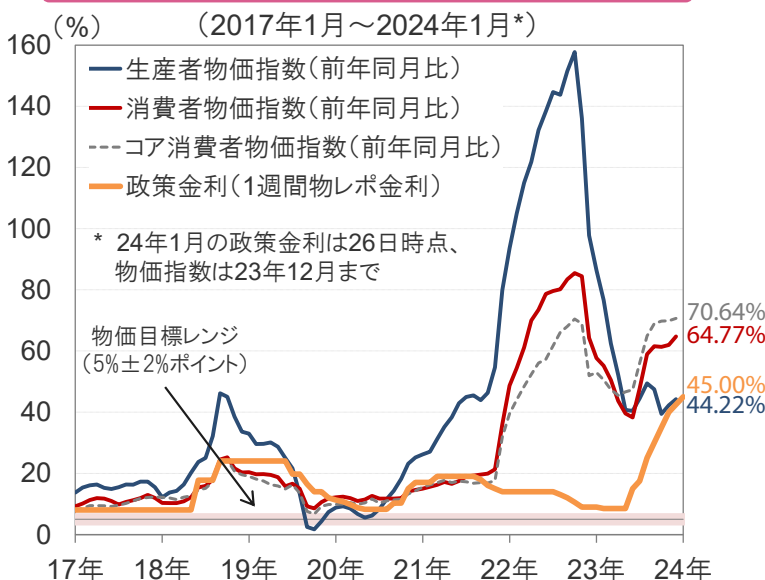
トルコのインフレ率(消費者物価指数の前年比、以下同様)の見通しは、中央銀行が11月に発表した予想では、2024年末:36%、2025年末:14%となっています。ただし、同国では最低賃金の大幅引き上げが相次いでおり、昨年1月の54.7%、同年7月の34%に続き、今年1月には49%(昨年1月との比較では100%)引き上げられました。昨年7月の引き上げは臨時措置で、今年の引き上げは1回限りながら、市場予想を上回る大幅な引き上げとなった影響に加え、1年前の物価水準が比較的落ち着いていたことなどもあり、インフレ率は今年5月に70%を超えると金融市場では見込まれています。その後、インフレ率は鈍化に向かうとみられるものの、年末でも40%台と、中央銀行の見通しを上回ると見込まれています。

しかし、インフレが鈍化傾向となっている米国やユーロ圏で今年、利下げが開始されれば、トルコでも、早ければ年後半に利下げが開始されるとの見方があります。一方で、トルコでのインフレの改善には時間を要するとして、利下げ開始は来年以降との見方もあります。

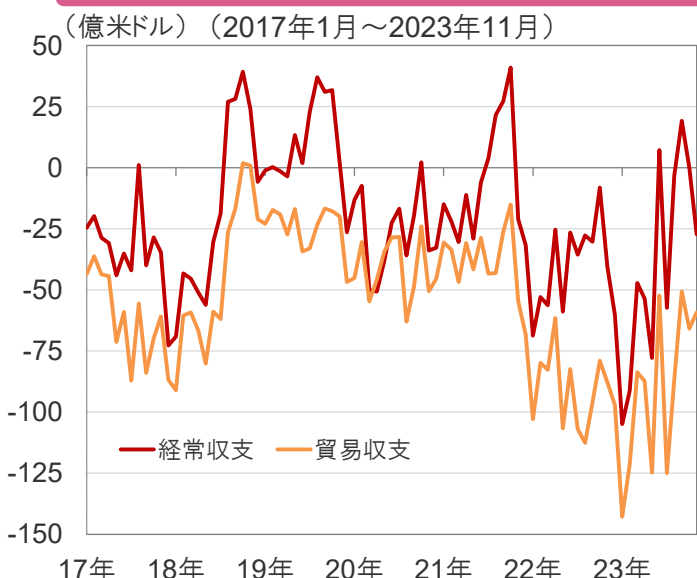
## 信認回復にはなお時間を要する模様

同国は、インフレ以外にも、経常収支や外貨準備などの面で脆弱性を抱えており、今後の政策運営も容易ではありません。こうした中、金融市場での同国に対する評価の回復やトルコ・リラの底打ち・持ち直しには時間を要するとみられます。

## トルコの物価および政策金利の推移



## トルコの貿易・経常収支の推移



## トルコ・リラの推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

●上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

<ご留意いただきたい点>

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込むなどのリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行本支店等の各商品の説明書等を必ずご覧ください。



株式会社三井住友銀行  
登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号  
加入協会/日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会